

令和8年度 第3回頸城区地域協議会次第

日時：令和8年6月18日（木）

午後6時30分～

場所：頸城コミュニティプラザ

2階 203会議室

1 開 会

2 会長あいさつ

3 自主的な審議

（1）自主的な審議で取り組むテーマについて

4 報告事項

（1）地域自治の推進に向けた今後の方策案に関する意見交換の内容について

5 そ の 他

6 閉 会

No.	検討項目	質問	回答
1	②地域協議会	公募公選への変更は、要望が反映されており、安堵している。	—
2	③地域運営組織への支援	地域運営組織とはどのようなものを想定しているのか。	地域により様々な捉え方もあるが、例えば、中山間地域の人口減少により、新聞が届かないことや町内会の行事ができないなどの課題がある。 上越市よりも人口減少の問題が厳しい自治体では、危機感から地域を支える団体が自然とできていることから、地域運営組織を育てることは、一つの解決策となるのではないかと考えている。
3		伴走支援の人的支援とは、人件費を補助するのか。または、実際に人員をあてるのか。人員の支援では、人によって取組方に熱意の差が出てしまうのではないのか。	具体的な制度設計は進んでいないが、人件費相当額をお渡しする方法がよいのではないかと考えている。
4		ボランティアで地域おこしに励んでいる人から「自分にも生活がある。対価を支払ってもらいたい。」という意見がある。対価に公金を使うことに疑問を感じる人もいると思うが、対価を支払わないと活動が衰えてしまう。	長野市では、一括交付金で使い方はある程度団体にゆだねる方式を採用しており、それらも含めて今後研究していく。
5		新たな制度で10/10の補助率となった場合、申請や要求額が増える場合がある。予算を各区に枠配分（均等割、人口割）とあるが継続できなくなる事業が出てくるのではないのか。	現在、補助金額については検討を進めており、可能な限り継続できるよう努力するが、市としては当該補助金に限らず、福祉や子育て支援など様々な分野で必要な予算があり、限られた財源の中で調整をおこなっていく。
6	④地域活動への支援	補助金額の提示はいつごろか。	本来は議会での承認後であるが、今回は制度の切り替わりであり、議会と調整が必要である。現時点では明言できないが、早く提示できるよう調整していきたい。
7		南川地区の外国人の中・高校生向けに学習支援を行う団体が活動しているが、市の事業になったため、地域独自の予算事業から外れている。今後、提案があった場合、どのような判断で市の直営事業になるのか。	あくまで補助金の通常スキームで8月から受付するが、ニーズを踏まえて担当課に伝えていく。 市としては、1月提案内容を検収し、ビジョンに合致しているかの判断を行う。その中で直営事業の必要があれば担当課につないでいく。 また、令和8年度に実施している事業について、外国人の学習支援は教育委員会が、防災研修会の提案は総合事務所が予算要求を行っている。市として実施する必要があると思われるものは総合事務所から予算要求時期に間に合うように担当課へ提案している。
8		対象団体の要件として「5人以上の構成員」とあるが、5人を下回る場合、提案できないのか。構成員が2人や3人であっても、事業の実績がある場合、緩和してもらえると助かる団体もある。	制度として5人をお願いしている。 現状は2名以上であるが、地域に必要と認められた団体であり、かつ、公金を使うものであるには一定数の構成員がいると考えている。 他の地区でも同様の意見があるため、今後検討する必要があると考えている。
9		昨年の11月に市長へ地域協議会の会長会議を行ってほしいと、要望したが未だに実現していない。制度の内容に変更があった場合、今後の動向を会長会議で知らせてほしい。	そのような要望を複数の地区でいただいた場合は、会長会議の実施を検討する。
10	⑥全般	補助金について、努力している人が報われないということがないようにしてほしい。 制度が変わるため、これまで申請してきた団体への説明を丁寧にしてほしい。 地域の運営組織に対しても情報共有してほしい。	—